

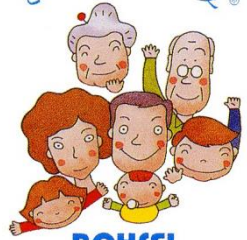
2018年 夏

# ドラッグニュース

BOHSEI PHARMACY

No.246

さわやかふれ愛®



BOHSEI  
PHARMACY

## ～薬局に関わる2つの職種と 医薬品の安全性向上への取り組み～

皆さんが利用されている薬局には何種類の医薬品が備蓄されていると思いますか？

望星薬局の各店舗では2,000種類以上の医薬品を取り扱っています。薬局では患者様に「物」としての医薬品だけでなく、効果や副作用などの「情報」も合わせて提供しているため、医薬品の種類が多いほど、その分取り扱う情報も多くなります。今回は薬の「物」と「情報」という観点から薬局に関わる2つの職種と、医薬品の安全性向上への取り組みについて紹介します。

### 医薬品卸売業者

薬局は医薬品を「医薬品卸売業者」から購入しています。

生命関連物質である医薬品は、製造から流通、使用に至るまで法律によって厳密に定められており、その法律を遵守しながら「必要な医薬品を、必要な時に、必要な場所へ、安定的に供給する」のが医薬品卸売業者の役割です。

そのため医薬品卸業者は「物的流通機能」が優れており、物流センターでは実に20,000品目以上の医薬品が在庫されています。これら医薬品は、商品名、規格、用量、有効期限、製造番号など必要な情報と共に厳重に管理され、出荷遅れやミスの許されない物流体制が整備されています。

医薬品の中には、麻薬、向精神薬、毒薬、劇薬など最高度の管理が必要とされるものがあり、また、厳重な温度・湿度管理が必要なもの、光で変色しやすいもの、衝撃に弱いものなど、非常に繊細な製剤が多く、それらの品質保持にも最大限の注意を払って管理しています。

そして、医薬品卸業者に強く期待される機能に「情報機能」があります。医薬品卸業者の営業担当者はMS（Marketing Specialist）と呼ばれており、特定のメーカーや医薬品に偏らない、公正な情報を医療機関や薬局に提供しています。それに加え、使用された医薬品に関する効果や副作用などの情報を医師や薬剤師にヒアリングし、製薬企業へフィードバックすることで安全性確保に

も努める「情報機能」を担っています。

また、災害時に医薬品の流通を通して国民の生命を守る役割を果たしています。2011年に東日本大震災が発生した際、日本中が混乱して交通網が寸断される中、医薬品卸業者の中には、自身も被災者であったにも関わらず、医薬品を届けるため尽力し現地での医療に非常に貢献しました。まさに日本の医療を支える頼もしい存在です。



## 製薬企業

製薬企業は医薬品を研究開発し製造・販売している企業です。生命関連物質である医薬品は、有効性・安全性・品質に関して厳密に試験されており、開発に至るまで以下の4つのステップを経る必要があります。

- ①基礎研究：医薬品になる可能性のある物質の調査、合成を行います。
- ②非臨床試験：基礎研究で得られた物質を対象に、動物を用いて行います。どのように吸収され、体内でどのように代謝され排泄されるか等の研究や、有効性・毒性の研究を行います。
- ③臨床試験：非臨床試験を通過した候補薬が人にとって有効かつ安全であるか調査します。同意を得た方々に対し、臨床試験は3段階で行われ、臨床試験のうち、薬の承認を受けるための試験のことを治験と言います。
- ④承認：厚生労働省に申請を行い、審査を通過して承認を得ることで、製造販売することができます。

新薬が一つ開発されるには10年から20年の歳月がかかり、その間にかかる費用は多い場合で500億円に及ぶと言われています。また、基礎研究で合成された化学物質が、実際に医薬品になる確率は3万分の1と言われています。

製薬企業には、研究開発や製造の担当者だけでなく、安全性や有効性、品質等の情報を取り扱っている担当者もいます。その中でも医療機関への情報提供を行っている担当者をMR (Medical Representative) といいます。MRは医師や薬剤師などの医療従事者に対し、新薬が発売された際、その有効性や臨床試験で得られた副作用の情報を提供します。



また、新薬が実際に医療現場で使用されて、新たな情報や副作用がないかを調査します。また既存の薬に関しても同様に情報提供や収集を行っています。

このように MR は、医薬品の有効性、安全性、品質などの「情報」も取り扱いつながりながら、安全な薬物治療の推進に貢献している職種になります。

## 患者様の声が医薬品の安全性につながっています

ここまでお話したように医薬品卸売業者の物流機能や製薬企業の新薬開発の臨床試験など、様々な角度から医薬品の安全性は管理されていますが、実際に医薬品を服用している患者様の声も医薬品の安全性の向上に繋がります。

皆さんは薬を服用して、何か気になる症状が出たことがありますか？  
薬局の窓口で患者様から「この薬を服用して、このような症状が起きた」とお話を伺うことがあります。医薬品を使用して起きた好ましくない反応を「有害事象」といいます。

薬局が患者様から得られた有害事象は、厚生労働省所管の独立行政法人である、医薬品医療機器総合機構（通称「PMDA」）に集積されます。

### PMDA



薬の安全性に関する情報を収集、分析、提供を行っています。他にも医薬品で起きた健康被害の救済制度などを行っています

その後、PMDA と販売元の製薬企業で協議を行い、有害事象と医薬品に関係性が認められることで、医療従事者向けの製品情報を記載した書面である「添付文書」が改訂されます。有害事象が「副作用」として記載され、医療従事者にも認知されることで、患者様の薬物療法の安全性が高まります。

有害事象

副作用

有害事象の中で、医薬品との因果関係が認められたものを副作用といいます。

このように患者様から伺った有害事象が集積されることは、「この薬ではこのような症状が起きやすい」、「この薬ではこのような注意が必要」など、医薬品の安全使用のための貴重な情報になります。

PMDA への報告を行いやすくするため、医薬品卸売業者が、販売元の製薬企業や PMDA への有害事象報告を中継している地域もあります。

薬を服用していて気になる症状がありましたら、ぜひ薬剤師にご相談ください。

# ヘルシーメニュー



## 「新しょうが」は今が旬

新しょうがとは、初夏に収穫され収穫後すぐに出荷される根しょうがのことをいいます。茎の付け根が紅色をしており、通年出回る根しょうがと比べ、みずみずしく、やわらかくて、辛みが穏やかなのが特徴です。

しょうがに含まれる辛み成分のショウガオールは、血行を良くし体を温める働きがあるので、風邪のひき始めの改善、冷え性の予防・改善に役立ちます。また、胃液の分泌を促し食欲を増進させる働きもあるので、夏バテで食欲不振になりやすいこの時期には特におすすめの食材です。

## 新しょうがの豚肉巻き



### 1人あたり

エネルギー	176kcal	脂質	15.2g
たんぱく質	6.8g	塩分	0.1g

### 【作り方】

- 1.新しょうがは皮を薄くむき4~5cmの長さの千切りにし、8等分にする。
- 2.大葉は縦半分に、スライスチーズは8等分に切る。
- 3.豚肉の両面に塩・こしょうを軽く振っておく
- 4.3に大葉・スライスチーズ・新しょうがをのせ、巻く。
- 5.フライパンを熱し4の巻き終わりが下になるように並べ入れ、中火で焼く。
- 6.焼き色がつき、巻き終わりの部分がしっかりくっついたら弱火にし、蓋をして蒸し焼きにする。
- 7.火が通ったらお皿に盛りつけて完成。

### 材料（4人分）

新しょうが	4か
け	
大葉	4枚
スライスチーズ	1枚
豚バラ肉（薄切り）	8枚
塩・こしょう	少々



### 〈栄養士からのアドバイス〉

新ショウガは、色が白っぽくツヤやハリがあり、茎の付け根が鮮やかな紅色をしているものが良品です。皮に傷やシワがないか確認して選ぶようにしましょう。また、あまり日持ちしません。できるだけ早めに食べるようにしましょう。

（ 望星築地薬局 管理栄養士 関口未奈 ）

# BOHSEI WORKER

望星薬局は東京、神奈川、埼玉で計 13 薬局を展開しており、約 140 名の薬剤師と約 90 名の医療事務、クラーク職員が勤務しています。

「学術、教育、コンピューターシステム」を3本の柱として力を入れてきた望星薬局では、認定薬剤師の資格を持つ薬剤師や、社会人大学院生として博士号取得を目指す薬剤師、コンピューター技術に精通している職員など多様な職員が在籍しています。本シリーズでは、そんな望星薬局が誇るべき専門性を持った職員を紹介していきます。第一回は伊勢原にある望星薬局に勤務する久田健登先生にインタビューしました。



望星薬局 久田健登先生  
外来がん治療認定薬剤師



望星薬局（伊勢原）

久田先生は、日本臨床腫瘍薬学会が認定している外来がん治療認定薬剤師であり、神奈川県下の保険薬局では3人目の外来がん治療認定薬剤師です。がん治療が日々進歩する中、常に新しい薬物療法の知識を取り入れていく必要があります。

## Q1. 外来がん治療認定薬剤師を取得しようと思ったきっかけは何ですか？

先輩に誘われて学会主催の勉強会に参加したのがきっかけでした。志高い先生方が多く参加していた勉強会に自分も参加することで、意識も変わり、『認定を目指してみよう』という気持ちを持つようになりました。

一重に「認定」と言っても、今は多くの資格が存在しています。特にがん領域は近年、飲み薬も増え、保険薬局の薬剤師が患者さんに直接かわる機会の多い分野だと感じています。目まぐるしく発展しているがん治療を患者さんにとって、より安全・安心に受けてもらうために取得した認定資格だと感じています。



## Q2. 外来がん治療認定薬剤師はどのような専門性をもった資格ですか？

外来がん治療認定薬剤師は『外来がん治療を安全に施行するための知識・技能を習得した薬剤師』・『地域がん医療において、患者さんとそのご家族をトータルサポートできる薬剤師』の養成を目指して創設された認定制度です。がん治療を行う上で治療プランの設計や患者さん個々の問題点の洗い出しなど、患者主体の治療実現の為に、患者さん、医療機関との情報共有や情報のフィードバックの一役を担う働きをしています。

## Q3. 資格を取得する前後で、どのような変化がありましたか？

保険薬局では患者さんの情報をまず始めに処方せんから知ることになります。認定の取得前後で処方せんの「読み方」が変わりました。処方内容だけにとらわれることが少なくなり、治療を受ける患者さんの背景を意識するようになったと思います。治療の一手段である、医薬品を患者背景に合わせ、どのように使用してもらうことが正しく、患者さんにとって負担にならないかを考えるようになりました。

## Q4. がんの患者様に対し、どのような活動を行っていますか？

新規に治療を始める患者さんには、こちらから電話による積極的な電話サポートを行うようにしています。また、こちらからの電話を希望されない方もいられますが、自宅にいるときのほうが疑問は多く浮かぶようで、患者さん自身から薬局のほうへ電話してくれる方も多くいらっしゃいます。

## Q5. 今後の目標がありましたら教えてください

がん治療は近年、目まぐるしく発展を遂げています。その一方で適正使用には、それを扱う側（＝医療従事者）のレベルアップは不可欠です。外来がん治療認定薬剤師はその一翼を担う資格であり、中心となってその情報・知識を広めていくべきだと思っています。今はまだ、自分自身のことで精一杯ですが、所属薬局にとどまることなく、多くの医療機関との連携により広めていければと思います。

---

ドラッグニュースNo.246 2018年7月1日発行

発行：株式会社 望星薬局／発行責任者：山口浩  
住所：神奈川県伊勢原市桜台 2-1-28／Tel.0463-91-4193  
(<http://www.bohseipharmacy.co.jp>)

※本誌に関するお問い合わせは広報室（喜多村）Tel：0463-71-9341